

第 111 回医療ビジネス研究会のご案内

マー君こと田中将大投手(NY:ニューヨーク・ヤンキース)。日本を代表するメジャーリーガーとして注目されていますが、怪我にまつわる話も少なくありません。NY に移籍したシーズン(2014)当初から大活躍し早々にオールスターにも選出されたものの、右肘靭帯の部分断裂(7月)で泣く泣く出場を辞退。復帰までに1年以上を要する靭帯再建手術を回避し、温存療法を選択しリハビリとトレーニングに専念することで、9月には75日ぶりに復帰登板(13勝目の白星で飾る)を果たしました。翌年(2105)のシーズンオフには右肘の骨片の摘出手術を受けましたが、現在でも右肘のトラブルはなく大活躍を続けています。

マー君の温存療法を支えたのがPRP(Platelet-Rich Plasma:多血小板血漿)療法。自己血液を採取し血小板だけを分離・濃縮したものを再度体内に戻すもので、新しい組織や細胞の成長を促す栄養素が豊富に含まれることから、体が本来持つ治癒力を強気にサポートします。本人の血液を使うため、アレルギー反応や感染などの副作用もないことから、近年は美容整形外科分野を中心にPRP療法と称される療法(自由診療)が急拡大しております。自己の血液を使うため、人体に悪影響を及ぼす大きな事故やトラブルは少ないものの、研究が十分になされていないことや療法そのものが確立されていないことから、効果が認められないケースもあり厚生労働省も市場の適正化に動き出しております。

そのような状況下、地道ではありますが科学的・学術的な研究が行われています。患者、患部の個体差をはじめ、同じ人の血液であっても採取時の体調や栄養状況によって組成も変化することから、多くの不確定要素や変数が介在するため研究は容易ではないようです。今回はそのような研究に取り組む順天堂大学医学部整形外科教室の小林洋平氏をお招きし話を伺います。同氏が牽引される研究グループでは整形外科分野での研究が中心となりますが、PRP療法の現状、課題、将来の可能性と具体的事例をご紹介しながら研究を平易に解説頂きます。

トップアスリートはもとより、仕事などで時間が取れないなどの理由から、適切な医療(手術)をうけることを躊躇している方、怪我や痛みから運動を止めてしまった方や体を動かすことを躊躇している方など、若い層から、手術そのものを忌避したり、健康や体力的理由で手術そのものができない後期高齢者や罹患者まで潜在需要は計り知れません。日本の高齢者人口は既に3,000万人を越え、80歳を超える女性の50%が罹患する変形性膝関節症等のなどの慢性的な痛みや不調で苦しむ人は少なくありません。消炎鎮痛剤や湿布薬などの対処療法に終始するのではなく、人体の再生力をフルに活用し根本的に対応することが可能となります。廃用症候群、ロコモティブ症候群、フレイルなどを回避する決定打となり、さらには整形外科分野以外の分野での応用も期待されます。奮ってご参加いただくようご案内申し上げます。

2016年10月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「PRP(多血小板血漿)療法/現状・課題・可能性」=後期高齢者からトップアスリートまで=
- 講師:小林洋平氏 医学博士 順天堂大学整形外科学教室、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツ医、Jリーグジェフユナイテッド市原千葉チームドクター
- 開催日時:2016年11月8日(火曜日)18:30~20:30

以上

※ 当研究会は完全予約制です。【要参加票】

参加を希望される方は御手数ですがOMBR:(特非)医療事業再生機構のホームページよりお申込戴くか、info@npombr.org 宛にご連絡ください。